

「AZOOR complex の臨床像の検討」について

1. 背景と目的

急性帯状潜在性網膜外層症 (acute zonal occult outer retinopathy: AZOOR) は若年女性に好発し、光視症を伴う急激な視力低下と視野欠損を認め、網膜外層障害が生じる疾患です。多発消失性白点症候群 (multiple evanescent white dot syndrome: MEWDS)、点状脈絡膜内層症 (punctate inner choroidopathy: PIC)、多巣性脈絡膜炎 (multifocal choroiditis: MFC)、acute macular neuroretinopathy (AMN) など患者さんの背景が AZOOR と共通していることから、一つの疾患スペクトラムとして AZOOR complex と定義されています。これまで AZOOR、MEWDS、PIC など各疾患ごとにその臨床像について検討した報告はありますが、同一施設内で AZOOR complex に含まれる各疾患の患者背景、臨床経過や視力予後について統計学的比較した報告は少なく、各疾患間の予後の違いについて検討が必要と思われます。そこで本研究では杏林アイセンターにおける AZOOR complex の臨床像を明らかにするため、診療録を基に眼所見、全身検査所見、発症後の経過、治療方法、視力予後などに関して症例ごとに後ろ向きに検討することを目的とします。この研究を通じて AZOOR complex の診断の向上、個々の患者さんに適した治療法の開発、より安定した治療成績、視力予後の向上に繋がることが期待されます。

2. 研究内容

この調査では、2013年1月1日から2025年2月20日までに杏林大学付属病院アイセンターを受診し、AZOOR complex と診断された方を対象とします。あなたが病院で受けた検査や治療の情報をカルテから調べさせていただき、データとして集計します。従って、この研究にご協力いただくために、特別な検査や治療を新たに行なうことは一切ありません。また、この研究では、調査内容に患者さんの個人を特定できるようなデータ（氏名、住所、患者IDなど）は一切含みませんので、個人情報漏出の心配はありません。また本研究で得られた情報を、将来新たに計画・実施される医学系研究に利用する可能性があります。利用する際は、新たな研究計画書を作成又は研究計画書の変更をした上で、事前に倫理委員会に申請して承認を受け、二次利用することについて情報公開文書にて拒否機会の保障を行ったうえで使用します。

3. 同意の自由、同意撤回の自由

今回のこの研究は、過去の診療情報を調査するものであり、特に患者さんに新たな負担やご迷惑をおかけすることは無いと考えています。もし、この研究に自分のデータを含めないでほしいというご希望がございましたら、下記の研究責任者までその旨をご連絡下さい。この研究に協力しないからといって、今後の診療に何ら不利益になるようなことはありません。

4. 費用負担に関する事項

今後のぶどう膜炎の診療は一般診療として執り行われますので、一般診療に要する費用（検査費、診察料、薬代など）については通常通り患者さんに負担して頂く必要があります。それ以外の負担をお願いすることは一切ありません。また、本研究に関する謝金はありません。

5. 本研究から生じる知的財産権の帰属

研究によっては、その結果において知的財産権が生じることが考えられます。このような場合に、大勢の方の診断結果を解析、集計して得た結果の知的財産なので、その権利は研究者あるいは杏林大学に属するものとさせていただきます。これは諸外国でも同様な考え方になっています。

本研究についてご不明の点がありましたら、下記までご連絡下さい。

杏林大学医学部眼科学 (アイセンター)

代表研究者 慶野博

共同研究者 岡田アナベルあやめ、渡辺交世、中山真紀子、安藤良将、林勇海、長堀克哉、
齋藤翔子、角田 麻理、盧 錫恩、大山文弘

お問い合わせ先	住所	〒157-0065 東京都三鷹市新川 6-20-2	杏林大学医学部附属病院眼科
	電話	0422-47-5511 (内線 22606、眼科医局)	